

せいじん なまえ ばしょう
聖人の名前になった芭蕉

ごしちご ことば せかいじゅう
 「五七五」の言葉でつくり、世界中で
 いちばんみじか し はいく
 一番短い詩といわれる「俳句」。

えどじだい いま かたち かん
 江戸時代に、今のような俳句の形を完
 せい まつお ばしょう はいせい よ
 成した松尾芭蕉は「俳聖」と呼ばれ、俳
 つく ひとたち さんけい
 句を作る人達に尊敬されています。

芭蕉は、若い頃「桃青」という名前で
 俳句を作っていました。

ほんじょふかがわ いおり
 芭蕉が本所深川の庵
 ひ こ とき
 (すまい) に引っ越した時、
 でし いわ
 弟子がお祝いに、その
 ころちゅうごく わた
 頃中国から渡ってきた、
 めすら き
 珍しい「芭蕉」の木を
 プレゼントしました。

おお みごと
 芭蕉は大きく見事な
 は つ きんじよ
 葉っぱを付けて、近所

松尾芭蕉 (1644~94)



でも評判になりました。芭蕉もこの立派な葉っぱを気に入り、庵を「芭蕉庵」と呼び、俳句の名前も「芭蕉」にしました。

俳句というと古めかしいと思う人もいますが、俳句を完成した芭蕉は、新しいことが好きな、チャレンジの人だったのかも知れませんね。

芭蕉はバナナの兄弟で、小さなバナナのような実を付けます。沖縄では芭蕉の繊維から布を作り、風通しが良いので夏の服にします。



芭蕉の花
(花が咲くと木は枯れてしまします。)

百花園探検カード No009

制作 百花園サポート士隊

墨田区東向島 3-18-3 向島百花園内

協力 イタリアンレストラン Tom Tom

墨田区東向島 5-3-7 東向島駅前

(3610) 0430

後援 墨田区教育委員会